

(保護者用)

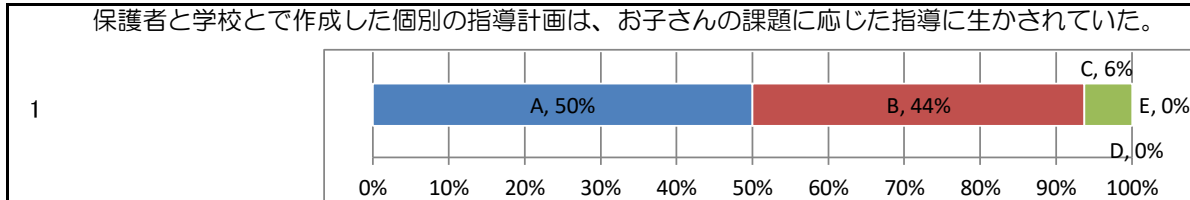
令和元年度 学校評価アンケート

※ A:大いにそう思う B:だいたいそう思う C:ふつう D:あまりそう思わない E:まったくそう思わない

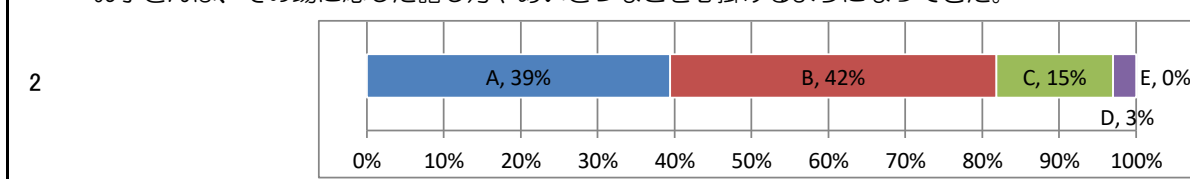
1 豊かな言語力・社会性の育成

(1) 言語力・コミュニケーション能力の向上

保護者と学校とで作成した個別の指導計画は、お子さんの課題に応じた指導に活かされていた。

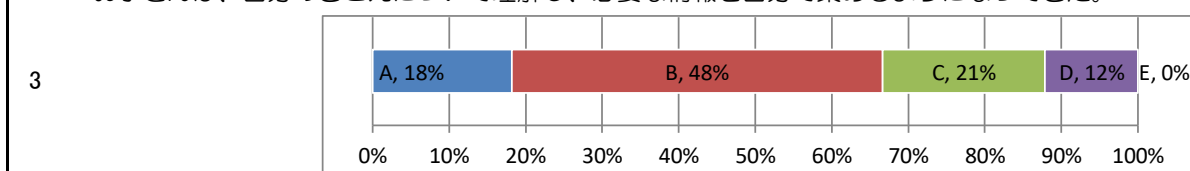


お子さんは、その場に応じた話し方やあいさつなどを心掛けるようになってきた。

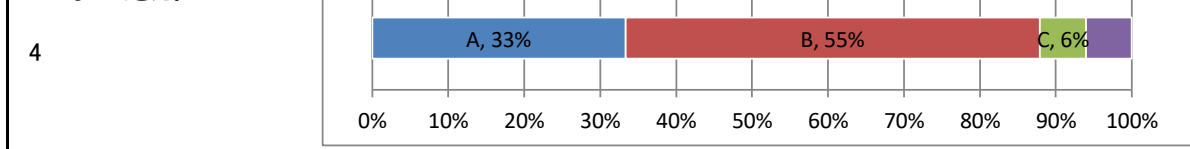


(2) キャリア教育の充実

お子さんは、自分のきこえについて理解し、必要な情報を自分で集めるようになってきた。

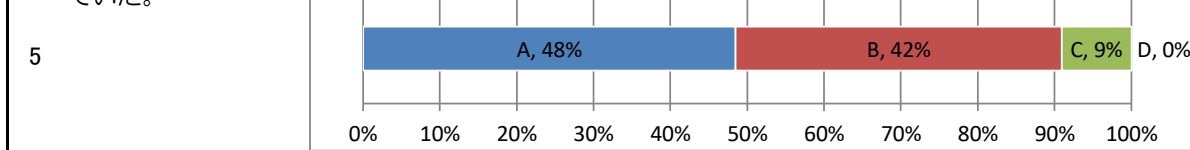


お子さんは、周囲との関わりの中で、自分のやりたいことを伝えたり、自分の役割を果たそうとしたりするようになってきた。

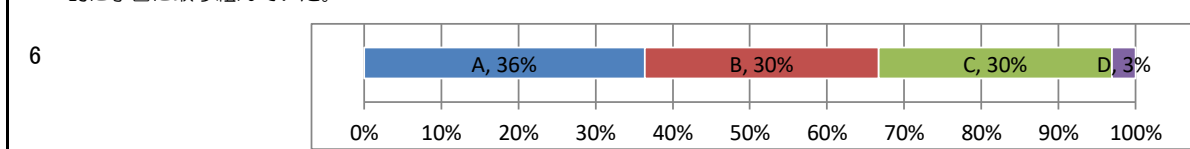


2 教科指導の充実

お子さんは、学校に行くことを楽しみに登校したり、学んだことを様々な場で生かそうとしたりしていた。



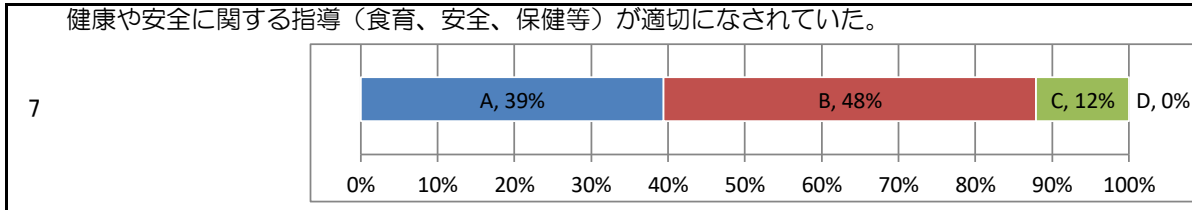
お子さんは、授業で、「分かった」「できた」といった喜びを味わったり、分からないことは質問したりして、意欲的に学習に取り組んでいた。



3 安全と健康管理

☆ 子どもたちの日々の安心・安全を守る指導の充実

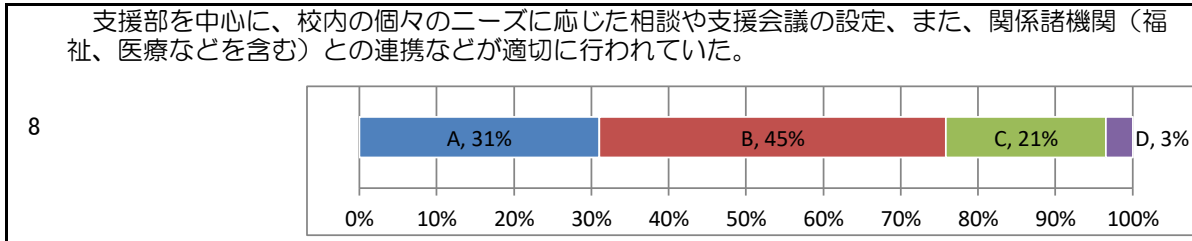
健康や安全に関する指導（食育、安全、保健等）が適切になされていた。



4 相談・支援機能の充実

(1) 支援部を中心とした校内支援体制の充実

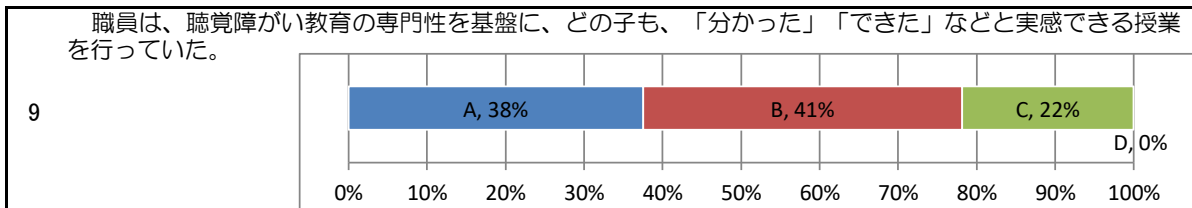
支援部を中心に、校内の個々のニーズに応じた相談や支援会議の設定、また、関係諸機関（福祉、医療などを含む）との連携などが適切に行われていた。



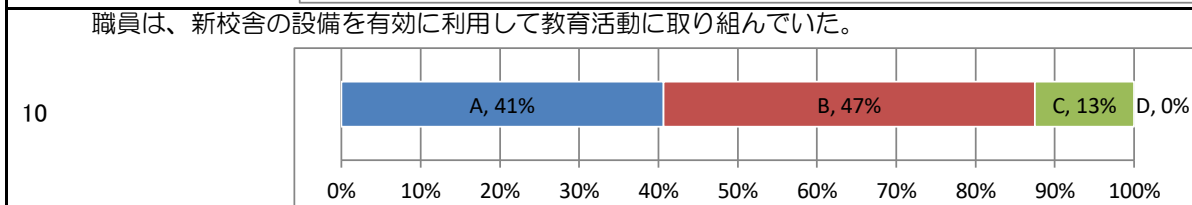
5 職員の連携による指導力・支援力などの向上

(1) 教職員の力量、チーム力などの向上

職員は、聴覚障がい教育の専門性を基盤に、どの子どもも、「分かった」「できた」など実感できる授業を行っていた。



職員は、新校舎の設備を有効に利用して教育活動に取り組んでいた。



職員は、部間（幼小中高）で連携し、学校教育目標の具現に向けて取り組んでいた。

